

一般社団法人日本歯科医学会連合
国際活動委員会フォーラム2024
抄録集

翔(と)びたて! グローバルな舞台で活躍する力
～国際社会でのリーダーシップを目指して～

オンライン (ライブ) およびオンデマンド配信
令和6 (2024) 年11月24日 (日) 9:30-12:10

事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12 第三東郷パークビル 4F
一般社団法人 日本歯科医学会連合
Fax: 03-3263-7761 E-mail: jimukyoku@nsigr.or.jp



翔(と)びたて! グローバルな舞台で活躍する力 ～国際社会でのリーダーシップを目指して～

オンライン(ライブ)およびオンデマンド配信

開催日時: 令和6(2024)年11月24日(日)9:30-12:10

【タイムテーブル】

座長 柳井智恵 (国際活動委員会 委員長)

9:30 開会

開会の辞と趣旨説明 柳井智恵 (国際活動委員会 委員長)

挨拶 住友雅人 (日本歯科医学会連合 理事長)

9:40 第1部 基調講演 座長 柳井智恵 (国際活動委員会 委員長)

演題 国際活躍人材の育成と自己形成～NationalのないところにInternationalはない～

講師 田上順次 (チュラロンコン大学歯学部教授)

10:10 第2部 招待講演 座長 保坂啓一 (国際活動委員会 副委員長)

演題 未知の世界へ踏み出す勇気～海外に眠る無限の機会を追求する～

講師 小野法明 (テキサス大学ヒューストン校歯学部准教授)

10:40 第3部 シンポジウム

「世界の留学・研修先から ～アフターコロナ・円安時期の“今”のリアル～」

・留学という人生の転機: 二か国留学から得た挑戦のヒント

芝 多佳彦 (東京科学大学 歯学部 生体支持組織学講座 歯周病学分野)

・シャリテーベルリン医科大学での留学を終えて

小高研人 (東京歯科大学 歯科放射線学講座)

「グローバル人材育成と海外留学・研修の未来におけるコロナ禍の影響分析について

アンケート報告」

八田みのり (国際活動委員会幹事)

コーディネーター 吉川一志 (国際活動委員会 委員)

峯 篤史 (国際活動委員会 委員)

11:40 第4部 総合討論

講師: 田上順次, 小野法明, 芝 多佳彦, 小高研人, 八田みのり

コーディネーター: 吉川一志, 峯 篤史

12:10 閉会の辞 保坂啓一 (国際活動委員会 副委員長)

国際活躍人材の育成と自己形成～NationalのないところにInternationalはない～

田上 順次 (たがみ じゅんじ)

チュラロンコン大学歯学部 教授



抄録

歯学研究を生業とする以上、国内外に関わらず優れた研究を推進することが本務である。しかし現在では、国際的な活動は避けて通ることはできない。それならばそれを活用して、自らの本業を推進すべきである。どのような立場でも人との交流の場はある。それは一人の人間として、相手も一人の人間としての交流であり、偶々相手が海外の人であったときに国際交流となるだけのことである。先方にとって交流相手としてふさわしい自分であることが、国際交流推進の基本的な条件であると思う。大学院生、若手教員、教室主宰者、学部運営などの立場において、置かれた状況や環境はさまざまであるが、筆者が体験してきた事例を紹介しながら、今後の国際的に活躍できる、歯科界のリーダー育成についての考察を展開したい。

略歴

学歴

- 1980年 東京医科歯科大学歯学部卒業（学28回）
- 1984年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了（歯学博士）

職歴

- 1984年 東京医科歯科大学歯科保存学第一講座助手
- 1987年 米国Medical College of Georgia, Adjunct Assistant Professor
- 1994年 奥羽大学歯学部教授
- 1995年 東京医科歯科大学歯学部教授（現 う蝕制御学分野）
同大学歯学部附属病院歯科技工士学校校長、歯学部長
同大学理事、副学長（教育担当）等 歴任
- 2001年 第一回国際接着歯学会 大会長
King's College（英国）、Mahidol 大学（タイ）、北京大学（中国）、
Yangon 歯科大学（ミャンマー）より名誉学位授与
IADR（International Association for Dental Research）より最優秀研究者賞（Wilmer Souder Award）、日本歯科医学会会長賞受賞
- 現在 Chulalongkorn大学（タイ）教授、Indonesia大学、朝日大学にて客員教授、
クオーツデンタルクリニック院長、DES歯学教育スクール理事長、
FDI（世界歯科連盟）生涯研修プログラム講師、米国Academy of Biomimetic Dentistryの学術顧問兼講師

未知の世界へ踏み出す勇気～海外に眠る無限の機会を追求する～

小野 法明 (おの のりあき)

テキサス大学ヒューストン校歯学部 准教授



抄録

数ある医療関連の職種の中でも、歯科医師としてのキャリアは特に実りが多いことは私たち皆が認識するところである。歯学部の役割は、従来の地域医療を担う歯科医師の養成に特化する時代からすでに脱却し、卒後に多様なキャリアパスを提供することが求められることが唱えられて久しい。その中で多くの歯学部が大学院大学へと転化し、大学の教員数も頭打ちとなる中で、大学院の卒後にも多様なキャリアパスを提供することが求められる。その中で一つの選択肢となるのが、海外への臨床あるいは研究留学である。歯科医療および大学教育のシステムが大きく異なる海外には、日本では見られない機会（チャンス）が眠っていることがある。本講演では、演者が米国で辿ったキャリアパスと照らし合わせながら、歯学部を卒業した後に海外でどのような機会があるのか、またそのチャンスを掴むためにはどのような素質が必要なのか、ディスカッションしたい。

略歴

学歴

- 2003年 東京医科歯科大学（現東京科学大学）歯学部卒業
- 2007年 東京医科歯科大学医歯学総合研究科修了

職歴

- 2007年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 医員（咬合機能矯正学）
- 2009年 マサチューセッツ総合病院 リサーチフェロー（内分泌科）
- 2012年 マサチューセッツ総合病院 インストラクター（内分泌科）
- 2014年 ミシガン大学歯学部 アシスタントプロフェッサー（矯正小児歯科）
- 2020年 ミシガン大学歯学部 アソシエイトプロフェッサー（テニユア）
- 2021年～ テキサス大学ヒューストン校歯学部 アソシエイトプロフェッサー

留学という人生の転機: 二か国留学から得た挑戦のヒント

芝 多佳彦 (しば たかひこ)

東京科学大学病院 助教



抄録

留学は人生の大きな転機であり、異なる文化や環境での経験が自己成長や新たな視点の獲得に繋がります。私自身も、歯科医師としてのキャリアを大きく広げる重要な転機となりました。今回は、アメリカと中国の二か国での留学経験を通じて得た教訓や挑戦についてお話ししたいと思います。

留学には、奨学金の獲得といった金銭面の問題、家族や留学先の選択、将来のキャリアプランニングなど、多くのことを考慮する必要があります。それらの問題を乗り越えた後でも、留学期間をいかに有意義に過ごせるかというプレッシャーもあります。私の最初の留学は、新型コロナウイルスのパンデミックに直面し、二回目の留学はアフターコロナと円安の影響を受けました。それでも、異文化に触れ、新しい上司や同僚とのコミュニケーションを通じて、留学ならではの貴重な経験を得ることができました。今後留学を考えている歯科医師や学生に向けた実践的なアドバイスを共有できればと思います。

略歴

学歴

- 2009年 昭和大学歯学部 卒業
- 2017年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 修了
- 2020年 北京大学口腔医学院 (ITI スカラー) 修了

職歴

- 2010年 日本歯科大学附属病院臨床研修歯科医 修了
- 2017年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 医員
- 2018年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 特任助教
- 2020年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 助教
- 2022年 ハーバード大学口腔内科・感染・免疫学分野 客員助教
- 2024年 東京科学大学病院 助教

シャリテールリン医科大学での留学を終えて

小高研人（おだか けんと）

東京歯科大学 歯科放射線学講座 講師



抄録

2023年2月23日から2024年2月22日までの1年間、ドイツ連邦共和国シャリテールリン医科大学口腔顎顔面外科学講座(Charité - Universitätsmedizin Berlin, Mund-, Kiefer- und Gesichtschirurgie)にvisiting researcherとして、妻と当時2歳の息子を帯同して長期海外出張をさせていただきました。

シャリテールは1709年にプロイセン王フリードリヒ1世の命令でペストの検疫所を基として設立され、現在では4つのキャンパスと17部門に分かれたシャリテールセンター(CC)、100以上の診療所および研究所を有する研究集約的な医療機関です。シャリテールの口腔顎顔面外科学においては、術中CTや立体顕微鏡システム、患者固有インプラント(PSI)、DaVinciシステムによるロボット手術など、多彩な手術支援技術が活用されており、多くの手術に参加させていただくことでデジタル技術による手術支援について理解を深めることができました。また研究について、画像診断技術を応用した診断支援に関するプロジェクト4つに携わらせていただきました。

本講演では、アカデミックな内容のみならず、家族でドイツに1年間留学して感じたことを皆様と共有できればと考えております。

略歴

学歴

- 2012年 東京歯科大学 卒業
- 2017年 東京歯科大学 大学院 歯学研究科 修了

職歴

- 2017年 東京歯科大学 解剖学講座 助教
- 2018年 東京歯科大学 歯科放射線学講座 助教
- 2021年 東京歯科大学 歯科放射線学講座 講師

グローバル人材育成と海外留学・研修の未来におけるコロナ禍の影響分析について アンケート報告

八田みのり (はったみのり)

日本歯科大学生命歯学部 准教授
日本歯科医学会連合国際活動委員会



抄録

一般社団法人日本歯科医学会連合国際活動委員会は、会員学会のグローバル人材の育成を支援する多様な取り組みを実施してまいりました。

令和5年度国際活動委員会フォーラムでは、コロナ禍で制限されていた海外留学・研修が再始動することを見据え、各大学での国際交流、国際活動状況を報告いたしました。

この流れを受け、本委員会の令和6年度事業として、改めて過去4年間のコロナ禍およびその直後の期間に海外留学・研修された本学会の正会員・準会員の先生を対象に、表記オンラインアンケートを令和6年7月25日から9月30日までの期間で実施いたしました。海外留学・研修に影響を及ぼしたであろう様々な経験、体験の情報を収集することは、今後海外留学・研修を希望されている方にとっては貴重な情報源となります。さらに、本委員会の活動が、「自分も将来海外留学・研修に翔(と)びたとう!」と考えるきっかけとなることを願っております。

本シンポジウムでは、ご回答いただいた皆様から寄せられたこの期間ならではの経験・体験を含めたアンケート結果を報告いたします。

略歴

学歴

- 2001年 日本歯科大学歯学部 卒業
- 2008年 日本歯科大学大学院生命歯学研究科歯科臨床系専攻 修了

職歴

- 2011年 日本歯科大学附属病院総合診療科 助教
- 2012年 日本歯科大学附属病院総合診療科 講師
- 2015年 フィンランド・トゥルク大学歯学部留学
- 2017年 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座 講師
- 2022年～ 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座 准教授
- 2023年～ 日本歯科医学会連合国際活動委員会 幹事